

雨のめぐみを生かした能楽堂

松江市立八雲小学校六年 石倉 要

ぼくは、能楽の仕舞や能管を学んでいるので、能楽堂が大好きだ。今年の夏には、岡山後樂園の能楽堂で仕舞と能管の発表をした。舞台上に聞こえてくるセミの声が何とも言えず美しかった。都会の能楽堂は、ビルの中にあることが多く、クーラーやだんぼうがまいていてうれしいが、自然と一体化した能楽堂のみ力にはかなわない。

海に浮かぶ厳島神社の能楽堂は、他に例のない最高の能楽堂だ。能舞台と見所と呼ばれる客席の間にある庭（厳島の場合は海）の上には屋根はなく、雨や雪が自然のままに降ってくる。観客は、海ごしの舞台に芸術をみろしおが満ちているときには波の音や魚のすがたを楽しむことができ、引いている時にはカニやヤドカリのすがたが楽しめる。

ぼくの提案は、この厳島の能楽堂に近い、雨水を活用した舞台の設営だ。自然と一体化

した舞台に雨水を活用した池をめぐらせる。巖島では、海水が舞台の音を反きようさせていたが、ぼくの提案する舞台は雨水を活用して音を反響させる。能楽堂は、また、大雨が降った時には、床板を取り、池に雨水や河川からあふれた雨水を取り込むことで、周辺の住宅のしん水を防ぐ。

池では、淡水魚の養しよくも行う。こうすることによって、ボウフウの発生を防ぐこともできる。海に近い場所ではメダカが育ちやすい。

メダカは子どもから大人まで鑑賞用として親しまれているし、食用としている地域もある。山側の地域では、気温が低く、湧水も活用できる可能性がある。ギンガト、ヤマメなど商業用の魚の養しよくもできる。ヤマメなどの養しよくであれば、つりぼりも作ることもできる。ぼくは、去年、大山大山で「湧水サーモニー」の養しよく、出荷を見学した。冷たい水で養しよくされた魚は、成長に時間がかかるが、身がとてもしまっている。また、寄生

虫にふれる機会がないので、生で食べる事ができる

山側の地域では、冷たい雨水を利用して和紙の紙すきも行いたい。和紙の原料となるミツマタやコウゾは、最近山の手入れが行われていないこと、山での作業が大変なことから収かく量が減っている。水が必要な和紙の生産と山林の手入れを同時に行うことで山の雨水の活用を活性化させる。ほくの住む島根は南は中国山地、北は日本海か汽水湖の宍道湖中海が広がっている。海側・山側それぞれ自然の立地を生かし、雨水や雪を活用することができると考えている。

雨水の池に浮かぶ舞台の芸術を中心とし、人々がふれあう公園の機能と洪水などの災害を防ぐ機能と魚の養いよくなるによる商業の機能と和紙の紙すきを通じた森林の保全活動を合体させ、地域の人々が雨水のめぐみで心も身体もお財布も豊かになるアイデアをぼくは提案したい。